

| | | |
|---------|---|------|
| 科目名 | 国際経済・地域統合論 B | |
| 担当者 | 山田 裕 | |
| 配当学期 | 秋学期 | |
| 単位 | 2単位 | |
| 授業概要 | 本講義においては、貿易政策の効果と限界、GATT/WTOによる自由貿易体制及び地域貿易協定の経済的効果について検討し、東アジア諸国等を例に地域経済貿易協定に対する取組について考察する。また、GATT/WTO及び環太平洋・東アジア経済圏の形成に関する日本の通商戦略についても検討する。 | |
| 授業の到達目標 | 貿易政策、自由貿易体制及び地域貿易協定の意義・経済的効果を習得するとともに、その課題を認識し、東アジア諸国等との比較において日本の通商戦略に関する理解を深める。 | |
| 授業計画 | (1) 貿易政策の効果と限界(1) (2) 貿易政策の効果と限界(2) (3) 貿易政策の効果と限界(3) (4) GATT/WTOによる自由貿易体制(1) (5) GATT/WTOによる自由貿易体制(2) (6) GATT/WTOによる自由貿易体制(3) (7) 地域貿易協定の経済的効果(1) (8) 地域貿易協定の経済的効果(2) (9) 地域貿易協定の経済的効果(3) (10) 東アジア諸国等の地域貿易協定戦略(1) (11) 東アジア諸国等の地域貿易協定戦略(2) (12) 日本の通商戦略の課題と取組(1) (13) 日本の通商戦略の課題と取組(2) (14) 日本の通商戦略の課題と取組(3) (15) まとめ | |
| 教科書 | 特に指定しない。授業において資料、レジメ等を配布する。 | |
| 参考文献 | 富浦英一『戦略的通商政策の経済学』日本経済新聞社、1995年 伊藤元重他著『通商摩擦はなぜ起きるのか』NTT出版、2000年 岩田一政編『日本の通商政策とWTO』日本経済新聞社、2003年 遠藤正寛著『自由貿易協定の経済分析』東京大学出版、2005年 浦田秀次郎他編『日本のFTA戦略』日本経済新聞社、2002年 馬田啓一他編著『日本の新通商政策』文真堂、2005年 | |
| 成績評価方法 | | 評価基準 |
| | 試験 -% | |

| | | |
|--------|-------------------------------------|--|
| | レポート 50% | ・ 期末における課題レポートの内容 |
| | 平常点評価 50% | ・ 授業における発表、討論等における積極性 ・ 授業における課題レポートの内容 |
| | その他 －% | ・ 出席率が著しく悪い場合には、評価の対象外とする。 |
| 関連 URL | | |
| 備考 | 春学期科目「国際経済・地域統合論 A」と併せて受講することが望ましい。 | |